



「コンピューターのウイルス対策の方法を教えてください!？」 今回は、そんな声にお答えします!!

★コンピューターウイルスとは?

一般的にコンピューターウイルスとは、悪意を持った人が作ったコンピューターに危害を与えるプログラムのことです。例えば、コンピューターがウイルスに感染してしまうと、必要なファイルを削除したり、パソコンの設定を勝手に変更したり、他人にウイルスを送り付けたりするなどの症状が表れます。

★ウイルス対策ソフトを使用しよう!!

コンピューターウイルスは、電子メールのやりとりで感染することが多いという事をご存じでしょうか? また、ホームページを見ているだけで感染してしまうこともあります。

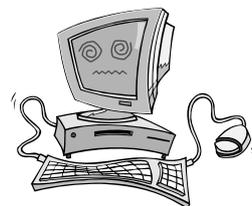
対策としては、不信なメールを表示しない、怪しいホームページを見ないなどの方法がありますが、一番

の方法は、ウイルスからコンピューターを防御するためのソフトウェア「ウイルス対策ソフト」を使用することです。コンピューターに侵入したウイルスを駆除したり、電子メールなどで受信するファイルにウイルスが含まれていないかどうかをチェックしたりしてくれます。

ウイルス対策ソフトは、いろいろなメーカーから販売されていますので、家電量販店などで確認してみてください。

★一度設定すれば大丈夫??

ウイルス対策ソフトは、一度インストール(設定)すれば安全ではなく、ウイルス定義情報を常に最新にしておく必要があります。また、利用期限が過ぎてしまうと利用できなくなったり、新しいウイルスに対応できなくなったりしますので、利用期限が過ぎたら更新の手続きをすることも必要です。



より多くの命を救うために… 救急救命士による救命処置拡大

市消防本部
☎530123

現在、土岐市において年間約2千件もの救急出動件数があり、そのうち心肺停止状態(心臓も呼吸もしていない状態)の救急出動は約1000件あります。

心肺停止状態の市民に、救急隊は常に少しでも多くの人を救いたいという気持ちから、救急隊員や救急救命士による電気ショックやチューブを使用した気道確保など、高度な処置を行う活動しています。さらに、

法改正に伴い医師にしかできなかった気管挿管や薬剤投与が認められ、それに伴い当市でも、挿管や薬剤が施せる救急救命士が誕生しました。

薬剤投与というのは、止まってしまった心臓にアドレナリンという薬を投与して頑張れとエールを送ってあげることです。応援された心臓は、心臓マッサージをされることにより、動き出すかもしれません。

しかし、いくら救急救命士が気管挿管や薬剤投与をしても、素早い心肺蘇生法(心臓マッサージと人工呼吸)をしてもらうことが必要なので



- ☎ 早い通報 : おちついて、はっきりと119番に通報する。
- ♥ 早い応急手当: 救急車の到着前に心肺蘇生法などの応急手当を行う。
- 🚑 早い救急処置: 救急救命士等の行う除細動などの高度な応急処置
- 🏥 早い医療処置: 医療機関における医療処置

それができるのは、救急隊ではなく、その場に居合わせたあなたしかいません。皆さんの手で『救命の輪』をつなげましょう。気管挿管と薬剤投与は、いずれも医師の指示のもと実施できるため、場合によってはできないこともあります。